

キジハタを増やそう！

～ 技術開発の現状と課題 ～

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所
研究員 町 敬介

1 背景・ねらい

キジハタは、秋に沿岸域で漁獲される高級魚で、本県の漁獲量は年間 25 トン程度である。キジハタについては、以前から漁業者から種苗放流による資源増大の要望が強く寄せられていたため、当所で平成 6～13 年度に種苗生産技術開発の研究を実施したが、当時は種苗の安定的量産技術の開発までには至らなかった。

そこで、平成 23 年度から 1 日 100 万粒規模の良質卵の安定確保と、種苗生産時の生残率を 10%以上にする技術の開発を目標に、親魚や仔稚魚の飼育方法について検討を行っている。今回は、これまでに得られた結果について報告する。

2 成果の概要

平成 24 年度の採卵結果を図 1 に、25 年度の採卵結果を図 2 にそれぞれ示した。

24 年度の採卵では、浮上卵（≒良質卵）の割合は平均 10.3%と低かった。

そこで、25 年度は、①親魚の仕立ての改善として、雄の尾数を増やすとともに、餌を生餌からモイストマッシュに変更し、親魚の栄養状態の向上に努め、②親魚水槽の仕様を変更し、採卵方法を改良した。その結果、25 年度は浮上卵の割合は平均 46.3%にまで向上し、良質卵の安定的確保を実現した。

24 年度の種苗生産結果を図 3 に示した。24 年度は、約 73 千尾のふ化仔魚から、55 尾の生産にとどまった。その原因として、飼育初期の浮上死、沈降死、衝撃死が考えられた。

そこで、25 年度は飼育初期の減耗を抑制するため、エアーで水を循環させる方法から、底注水方式に変更するなどの工夫や改良を行ったところ（図 4, 写真 1）、ふ化仔魚約 554 千尾から、約 83 千尾の稚魚の生産に成功した。

3 成果の活用面・留意点

25 年度の生産成績は、他県のキジハタ生産機関に劣らないものであり、来年度以降も同様の水準で生産することが、安定的な量産技術の確立に繋がると考えられる。

また、本生産で得られた種苗は、10 月 9～11 日に標識を施し、黒部市地先に約 36 千尾を試験放流した（写真 2）。今後は、生産した種苗の放流を継続するとともに、市場での再捕状況を調査することで、再捕魚の混入率や回収率等を算出し、放流効果について検討していく。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 栽培・深層水課

担当：町 敬介

TEL：076-475-0036

(参考) 具体的データ

親魚: 38尾 (TL 27.1~42.7cm) 性比: ♂8: ♀30
 産卵期間: 7月21日~9月1日
 日別浮上卵数: 200~325,200粒
 平均浮上卵率: 10.3%

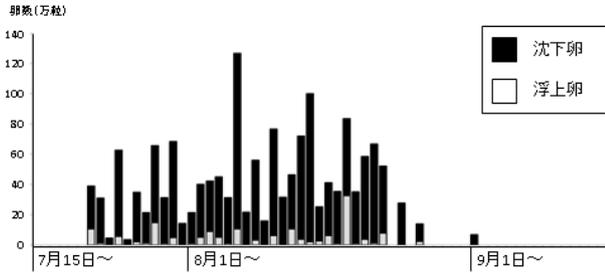


図1 平成24年度の採卵結果

親魚: 95尾 (TL 19.7~35.8cm) 性比: ♂31: ♀64
 産卵期間: 7月23日~9月12日
 日別浮上卵数: 6,900~3,897,600粒
 平均浮上卵率: 46.3%

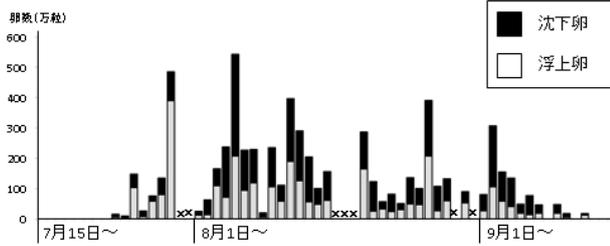


図2 平成25年度の採卵結果

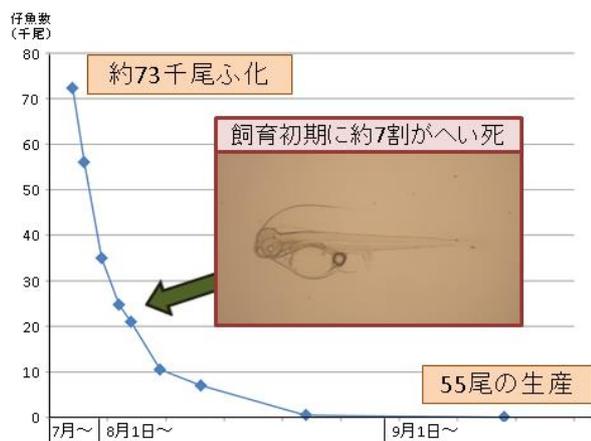


図3 平成24年度の種苗生産結果の概要

24年度: エアによる水の循環

➡ 25年度: 武部(2011)スジアラで実績のある底注水方式

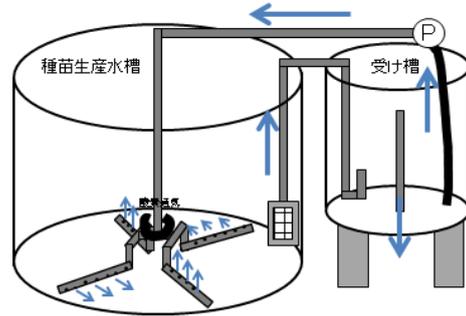


図4 平成25年度の種苗生産水槽の概要図

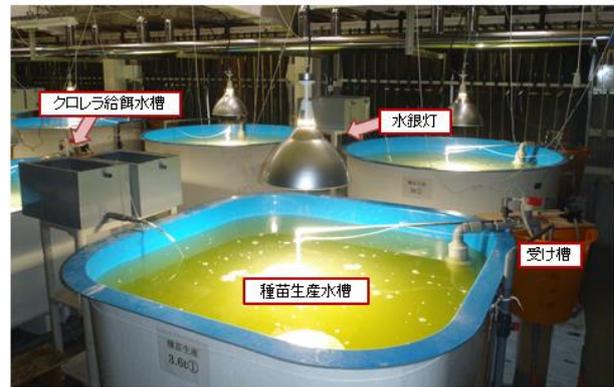


写真1 平成25年度の種苗生産水槽の写真



写真2 試験放流の様子